

琉球大学学術リポジトリ

フィリピンにおける小学校社会科 (2) : 教科書歴史記述にみるNationalization

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-04-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 里井, 洋一, Satoi, Yoichi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/316

フィリピンにおける小学校社会科Ⅱ ——教科書歴史記述にみる Nationalization ——

里井洋一※

SOCIAL STUDIES IN PHILIPPINES ELEMENTARY SCHOOL (II) —— Nationalization in Historical Materials on Textbook ——

SATOI Youichi

一、Nationalization に関する三つの視点

- 1、日本におけるフィリピン社会科教育研究
- 2、The New Elementary School Curriculum が示した Nationalization
- 3、Identity 形成と植民地的なものからの自立の視点
- 4、ETHNIC 統合の視点

二、National Identity 形成と歴史的事実

- 1、National Identity 形成のための歴史学習
- 2、フィリピン民衆の独立（自立）のために闘った場所
- 3、スペイン・日本からの独立の闘い
- 4、アメリカに対する闘い
- 5、The EDSA Revolution

三、植民地的なものからの自立

- 1、経済的従属の問題
- 2、軍事的従属の問題
- 3、政治的腐敗の問題
- 4、植民地以前の社会に見いだした展望

四、ETHNIC 認識と統合

- 1、フィリピン人の祖先「Early Filipinos」
- 2、文化の混合

五、まとめ

一、Nationalization に関する三つの視点

1、日本におけるフィリピン社会科教育研究

日本における、フィリピン社会科教育研究は少ない。その中で1970年代、フィリピン社会科の教育内容が具体的に分かるものとしては、高橋彰『全訳世界の地理教科書シリーズ14、フィリピン』(1978年)がある。この本は1976年版ハイスクー

ル1年のための社会科教科書『THE COMMUNITY』の訳出本である。『THE COMMUNITY』は「地域社会」をテーマに「環境」「資源」「伝統」「社会組織」「相互依存」「変化」という六つの概念を単元とする「概念接近法」を採用している¹¹⁾。

また、日本のフィリピン侵略と関わる教科書記述を紹介・分析したものとしては田原正子「フィ

※ Dept. of Social Science, Colledge of Education, University of Ryukyus.

リビン——終わりを知らない侵略者」(1983)¹²、越田稜『アジアの教科書に書かれた日本の戦争』(1990)¹³、里井洋一「フィリピン小学校社会科教科書の分析——日本統治下における人々のくらし——」(1994)¹⁴がある。

社会科授業に関する紹介・分析としては、木全消博「フィリピン小学校社会科授業」(1995)¹⁵や里井洋一・Santiago C. Higgins Jr「フィリピンにおける小学校社会科(1)——3学年の授業にみる『ナショナリズム』教育——」(1995)¹⁶がある。前者は1994年8月にフィリピンイロイロ地方での小学校2年と3年の社会科の授業参観を分析したものである。その特色を①フィリピン語で教えられる教科である。②明確な授業段階が設定されていること、③導入にゲームが採用されていること。④「アクション」という表現活動が位置づけられていること。⑤アメリカの評価理論をうけた評価テストが導入されている、としている。後者は1993年7月に西ビサヤ大学付属小学校3年生でおこなわれた授業「アメリカ支配による変化」のビデオを分析したものである。授業は木全分析の①②⑤の特色が見られる他に次の二点に特色がある。一点は教科書記述は歴史的題材にも関わらず、子どもの現実のアメリカ文化の影響を子どもたちが指摘している事。二点目は教師が歴史事実をナショナリズム的に吟味されることを期待していることにある。

2. The New Elementary School Curriculum が示した Nationalization

前述、里井洋一・Santiago C. Higgins Jr「フィリピンにおける小学校社会科(1)——3学年の授業にみる『ナショナリズム』教育——」は、小学校3年教科書の検討の上にたってある一つの授業を位置づけた。小論では日本の学習指導要領にあたる The New Elementary School Curriculum (以下NESCと表記) と教科書の歴史的記述を分析することによって、Nationalization (国民化・民族自立) を考えていく。

フィリピン小学校社会科の習得すべき一般概念は、1983年以後現在実施されている NESC 市民・文化(1~3年)科、地理・歴史・市民科(4~6年)「序文」によると ①Pambansang

Pagkakakilanlan (National Identity)、②Pambansang Pagkakaisa (National Unity)、③Pambansang Katapatan (National Loyalty)である。

①Pambansang Pagkakakilanlan とは子どもの批判的な意識を発達させ、自分自身を認め、フィリピン人になることを誇りにもつこと。②Pambansang Pagkakaisa とは、「将来わたしたちの国にたいする人々の希望と統一を実現する代表者を認識することによって、わき出るような愛国心を喚起すること。③Pambansang Katapatan とは、自分と他者とそして国の発展させるために自らの才能を提供すること。すなわち國にたいする誠実さをもたせること、である。以上をとおして子どもたちには、ナショナリズムおもにフィリピン人としての Identity が促進されることが期待されている。小論では以上二つの概念を促進することを Nationalization (国民化・民族自立)¹⁷ として包括した。

3. Identity 形成と植民地的なものからの自立の視点

1966年、フィリピンの歴史家、レナト・コンスタンティーノはフィリピンにおける教育の基本的目的は「民族としての存続を保障するものであるべきだ。」¹⁸ と述べた。彼の教育に対する問題意識は次の二点に要約される¹⁹。①植民地教育によって、英語が指導言語として導入され、フィリピン人としての思考と Identity を失ったこと。②植民地教育によってフィリピンが本質的に農業国であると教えこまれ、アメリカ製品の流入によって文化のアメリカ化が促進され、アメリカなしには生存できないと教化された事。

そしてコンスタンティーノは、この二点に関して、「外国の支配者(②)と自分たち(①)の両方について歪んだ意見を形成するようになった。この歪みを訂すことこそ教育の働きである。」と教育への期待を述べ、「今われわれは自分自身について、自らの救済について、自らの未来について考えるべきである。この企てについて若者の心を準備しないかぎり、われわれはいつまでも明確な目標と民族維持の保障を欠いた痛ましい人間集団でありつづけるだろう。」²⁰ と結んだ。コンスタ

里井：フィリピンにおける小学校社会科Ⅱ

ンティーノのような考え方がフィリピン人インテリ層にある程度定着し始めるのは1960年代も後半に入ってからだという¹⁰。

4、ETHNIC 統合の視点

1972年、マルコス大統領が戒厳令を施行した。その結果、「従来の政治理念であったアメリカ型民主主義への決別がつけられ、国内の社会不安に對処するための平等原理・社会正義と現体制の正統性を主張するための民族的独自性と政治過程が強調されるようになった。」¹¹。また、教育目標も「青少年の市民的能力の育成」¹²から「祖国愛を養い、国民の義務を教え、人格、人間としての規律および科学的、技術的、職業的能力を発達させる」¹³に変化した。

そういう体制の中、1977～82年に教育借款プロジェクトによって発行された教科書の内容分析と学校調査が1982年にドロニラによって行われた。その概要是市川誠氏によって「フィリピン教科書プロジェクトによるナショナル・アイデンティティ形成の評価——教科書の内容分析と学校調査をもとに——」¹⁴として報告されている。以下市川報告を通して、先にレナト・コンスタンティーノが提起した二点がドロニラの調査ではどうだったのかみていくことにする。

一点目はフィリピン人としての Identity 形成の問題である。この点に関して、マニラ首都圏小学生を対象にドロニラは次のように質問した。「フィリピン、日本、サウジアラビア、アメリカ、ソ連を自分の母国としたい順にならべなさい。」。その結果、フィリピンという選択肢は常に 2～3 番目（5 点満点中 2.83）に置かれ、回答者の多くは一番目にアメリカと答えたという。また、二点目の「國の自立による發展という目標への献身(特に植民地的地位からの脱却という目標に関して)」は 5 点満点で 0.80 という極めて低い数値を示した¹⁵。

ドロニラの調査報告では、レナト・コンスタンティーノが提起した二点以外の三つ目の問題を提起している。それは多様な ETHNIC をフィリピン人として統合する問題である。フィリピンフィリピン諸島の諸民族 (ETHNIC) の構成は複雑で 8 つの新マレー系民族が人口の 9 割を占め、イ

スラム教を信じる 13 の新マレー系民族が 1 割弱を占める。また山岳地帯にはアミニズム維持している先マレー系の人々が住み、言語学的には 100 を越える民族に分けられている。また中国系の人々も全人口の 1 % 弱をしめる。イスラム系の民族や山岳民族の大半はフィリピン人だという Identity をもたないという¹⁶、現実が横たわっている。調査ではこの点に関する「他のエスニック集団（例えばイスラム教徒、ネグリト、ボントック等）をフィリピン国家共同体の一員であるという認識」があるかどうかと小学生に問ったところ 5 点満点中 1.71 と低い水準を示した¹⁷。

市川によれば、ドロニラはこれらの小学生の調査結果から、教育借款プロジェクトで作られた教科書を次のように評価する。「プロジェクトの教科書はナショナルアイデンティティの形成に貢献するものではなかったと結論づけられている。教科書の内容が國家の团结や国民としてのアイデンティティに欠けた知識構造を固定化するものであると分析した後でドロニラは、このような実態を隠蔽するためにナショナルアイデンティティの形成というレトリックが用いられたことに対して批判をなげかけている。」¹⁸ マルコス戒厳令下で作られたプロジェクト教科書がナショナルアイデンティティの形成に貢献するものではなかったといふ。ドロニラの調査は市川も指摘するように教科書内容の個々の事例等が挙げられていない等いくつかの問題点もある。しかし、1980 年代初頭の教科書の動向とフィリピン人小学生のナショナリズム認識を知る上では重要な調査といえよう。

以下、コンスタンティーノが提起した①Identity 形成と②経済的自立の視点とドロニラが提起した③ETHNIC 統合の視点から、NESC¹⁹ 社会科（低学年は市民・文化科、高学年は地理・歴史・市民科）と教科書歴史的記述を吟味する。歴史的記述を扱う理由は、学習者の三つの視点による問題意識形成には、歴史認識が重要だと考えるからである。

なお、教科書は下記のものを吟味の対象とする。市民・文化科 1 学年教科書——（以下 1 年教科書と表記）

Menardo Anda, Ruben Milambiling, Teresita Battad, Rosella Goloso, Erlinda

Medina『CIVICS AND CULTURE 1 One COUNTRY One PEOPLE』VIBAL PUBLISHING HOUSE, INC. 1994

市民・文化科 2 学年教科書 —— (以下 2 年教科書と表記)

Menardo Anda, Teresita Battad, Rosella Goloso, Ruben Milambiling, Tresita Dimayuga, Carmelita Reyes.『CIVICS AND CULTURE 2 One COUNTRY One PEOPLE』VIBAL PUBLISHING HOUSE, INC. 1994

市民・文化科 3 学年教科書 —— (以下 3 年教科書と表記)

Rosella Goloso, Oferia Anda, Teresita Dimayuga, Ruben Milambiling, Teresita Battad,『CIVICS AND CULTURE 3 One COUNTRY One PEOPLE』VIBAL PUBLISHING HOUSE, INC. 1994

地理・歴史・市民科 4 学年教科書 —— (以下 4 学年教科書と表記)

IMELDA QUEJANO PEREZ, AURELIA O. TUMBAGA『CIVICS AND CULTURE 4』PHOENIX PUBLISHING HOUSE, INC. 1987

地理・歴史・市民科 5 学年教科書 —— (以下 5 学年教科書と表記)

GRECENCIA V. FLORES『CIVICS AND CULTURE 5』PHOENIX PUBLISHING HOUSE, INC. 1987

すべて英文であり、フィリピンの私立学校で使用されているものである^①。

二、National Identity 形成と歴史的事実

NESC 市民文化科すなわち社会科 1 年～ 3 年のカリキュラムの冒頭から四割余の分量が、Nationalization 三概念の一つ、National Identity/Pride の形成を目標とする記述で埋められている。ここでは、National Identity 形成をはかるための歴史的事実を N E S C や教科書がどのように叙述しているのかをみてみることにする。

1、National Identity 形成のための歴史学習

4 年教科書の冒頭には下記のように歴史学習の意味が記されている。

4 年教科書叙述①「なぜ、過去を知るべきなのか」(108～109 ページ)

How we live today has its roots in the past. The story we tell, the God we worship, the events we celebrate, the folksongs we sing, and the way we treat each other are a few example of what we learned from the old days.

Knowing the past will help us understand the present. Many people say that history repeats itself. The happenings in the past may take place again in a more or less similar way. The events may not be completely alike. The problems may in some way be different but the problems and *solutions of the past may help us solve similar problems today*. The causes of the problems in the past may be the same causes we find today. Knowing these can help us avoid committing the *same mistakes*. A knowledge of the past can also help us predict the future.

We can foresee the effects of what we do at present by looking back at similar happenings fifty years or even hundreds of years ago. Somehow there might be similarities. With this in mind, we can make better plans for the future.

As we begin to understand our people and nation through a study of the olden times, *we learn to appreciate why our people acted in those ways*. We will learn to love our people and our customs and traditions more. We become proud to be Filipinos.

要点は次の二点である。一つは歴史を学ぶことが今日の問題を解決することに役立つということである。二つめは、歴史において人々がなぜ行動したのかの真意を学んだ時、今まで以上にフィリピン人（習慣や伝統）を愛し、誇りを持てるようになるということである。歴史学習は現在の問題

里井：フィリピンにおける小学校社会科Ⅱ

解決に役立ち、歴史の中の民衆の行動の眞の意味を理解すればフィリピン人に誇りを持ち、Identityを確認できるというのである。

2、フィリピン民衆の独立（自立）のために闘った場所

ついで下記の2年生教科書記述をみていただきたい。

2年生教科書記述① (64ページ)

第1単元 WE ARE PROUD OF OUR COUNTRY

第6課 OUR HISTORICAL PLACE

Many important events happened in our country many years ago. We have places that will help us remember them. These places are important to us Filipinos because they remind us of our ancestors who fought for our independence. We call these historical places.

We have historical places all over the country. We can see them in Luzon, Visayas and Mindanao.

フィリピン人にとって大切な場所、すなわち歴史的な場所が二年生の教科書では規定されている。歴史的な場所とはフィリピン人（私たち）の独立（自立）のために戦った祖先を思いおこすための場所であるという。その具体的な場所の一番目の記述は下記の Rizal Park である。

2年生教科書記述② (65ページ)

(1) Rizal Park

Luneta is along the coast of Manila Bay. It is now called Rizal Park, our national Park. Rizal Park is a historical place. Here, Dr. Jose Rizal, our national hero, was shot by the Spaniards on December 30, 1896. At that time, the place was known as Bagumbayan. Rizal did not like the way the Spaniards treated the Filipino people. He wrote about this in his great books, Noli Me Tangere and El Filibusterismo. So the Spaniards shot him. Today, Rizal's monument is at the Bibalat Park.

ホセ・リサールを記念する国立公園である。マニラ湾沿いの海岸にある。ホセ・リサールはスペインによって、1896年10月30日殺された国民的英雄である。その死の原因はフィリピンの人々をスペインが虐待する事を告発した彼の二冊の偉大な本にあると、教科書は言う。

この後、教科書記述では下記の場所が続く

(2)カビテにある1898年独立宣言の場所すなわちアギナルド神社

(1)(2)で、スペインにたいする独立闘争が描かれることとなる。冒頭に描かれていることから、フィリピン人のスペインからの独立が2年教科書においていかに重視されているかわかる。

教科書記述はつづいて次のように続く。

(3)バターンにある対日戦戦死フィリピン兵士の記念碑

(4)コレヒドールにある太平洋戦争記念碑

(5)マクタン島にある侵略者マゼランを倒したラプラプの記念碑

(6)セブ島にある始めて最初のミサがおこなわれたマゼランクロス

(7)ミンダナオ島のラナオにあるスペインに屈伏しなかったスルタン、グダラットの要塞

(8)スペイン、アメリカの総督の屋敷であり、後大統領官邸となり、博物館として民衆に開放されているマラカニアン宮殿

(9)1986年マルコスを倒した記念すべき場所 EDS アベニュー

(10)その他

「NESC 2年市民文化科」は、この記述の該当部分を下記のように述べる。

I. National Identity / Pride

フィリピン人や國上フィリピンを確かめる事に価値を見いだすことができた。

C. Historical Place of the nation を価値づけることができた。

1. Historical Place of the nationを認識することができた。

2. いくつかの歴史的場所でおこった価値ある事件を表現することができた。

NESC は Historical Place of the nation に子

どもが価値を見いだせることを求めている。その上位目標はNational Identity / Pride を子どもに持たせたいということである。教科書はその目標を達成するために「フィリピン民衆の独立（自立）のために闘った場所」を設定し前記にみてきたように具体的な場所を挙げている。

3、スペイン・日本からの独立の闘い

上記の歴史的場所を時代順に整理すると次のようにになるだろう。

スペイン侵略にたいする闘い……(5)(7)付属(6)

スペインからの独立のための闘い……(IX2)

日本に対する闘い……(3)(4)

マルコス（独裁）にたいする闘い……(9)付属(8)

すなわち、スペイン、日本、マルコスからの独立（自立）の闘いにフィリピン人として誇りをもたせ Identity を形成しようというのである。

(5)のラプラブのマゼランにたいする闘いについてはすでに日本にも紹介されている^④。(7)はスペインに征服されなかったムスリムの人々の叙述である。まずはその教科書記述をみていただきたい。

2年生教科書記述③ (69ページ)

(7)The Fort of Sultan Kudarat

The Muslim Filipinos were never conquered by foreigners. That is why they are called the 'Unconquered Filipino Fighters.' One of them was Sultan Kudarat. Sultan Kudarat defended his people, against Spanish conquerors.

He fought bravely and never surrendered until he died. Today, Sultan Kudarat's monument is found in Buayan, Lanao in Mindanao.

この記述では、ムスリムフィリピン人は外国人によって決して征服されなかった人々として登場する。そしてそれ故に彼らが「征服されなかったフィリピン人の戦士」と呼ばれると記述され、その中の一人としてスペイン征服者から民衆を守った人としてスルタン・クダラトが描かれている。教科書はフィリピン人としての Identity をもたな

いといわれているムスリムをフィリピン人として統合しようとし、この教科書で学ぶ学習者に対してはムスリムフィリピン人に誇りをもたせようとしていることが分かる。これはスペインから独立しようと闘ったリサールやアギナルドと同列に置こうとしたものといえよう。

(3)はバターンにある対日戦戦死フィリピン兵士の記念碑、(4)はコレヒドールにある太平洋戦争記念碑である。前者は日本に対して闘ったフィリピン兵士の勇気と愛国心を讃えるものとなっている。後者はアメリカとフィリピン人戦士の名前を讃えるものとなっている。以上二年教科書には、スペインや日本からの独立の闘いは記述されているがフィリピンを植民地にしたもう一つの国アメリカに対する独立の闘いが無いことに気づく。

4、アメリカに対する闘い

レナト・コンスタンティーノは、リサールをスペインの圧政の事実を宣伝した人物として評価はするが、フィリピン独立の為に闘った人物としては評価しない。逆に独立を主張しなかった人物だからアメリカによって英雄として祭りあげられたのだという^⑤。またスペインからの独立宣言をしたアギナルドに対しては、アメリカへの卑屈さ、日本への協力等から眞の民族主義者ではなかったとしている^⑥。そして、レナトはアメリカ支配にたいし、実質的な抵抗運動は全くなかった。というフィリピン人の歴史認識が形成されてきたことを問題にする。以上のレナト・コンスタンティーノの主張、すなわち、アメリカに対する闘いという観点から NESC と教科書の歴史記述を考えてみる。

NESC 4年地理・歴史・公民では、「フィリピン文化にアメリカがおよぼした影響の善悪を選択することができた。」5年 NESC ではより明確に「フィリピンにおけるアメリカ政府の統治を拒否したフィリピン人英雄を叙述することができた。」とされている。NESC では高学年、特に5年の歴史学習では明瞭にアメリカへの抵抗した人々を英雄として位置づけ、コンスタンティーノの見解が反映している。

では教科書ではどうなのだろうか。

本分析に使用した1~3年の教科書には、アメ

リカ支配に対する抵抗は記述されていない。ただ、前述里井・Higgins 「フィリピンにおける小学校社会科（I）」では、あるフィリピン語3年教科書において、アメリカに対する抵抗記述があることを紹介している^⑨。

4年教科書（145ページ）では、アメリカはフィリピン独立の言論を封じ、それに反対して演劇で表現した Abad や Tolentino が投獄や逮捕されてまでアメリカに投降することを拒否したフィリピン人リーダーが描かれている。

5年歴史教科書では、下記にみるように目次そのものの中に「アメリカとの闘い」が意識化されている。

単元3 私たち国の発展に対するアメリカや日本の役割

第1章 統治権の疑問

- ▼切迫するフィリピンとアメリカの衝突
- ▼フィリピン・アメリカの交戦
- ▼地方での交戦
- ▼独立を求める戦争での英雄的行為
- ▼フィリピン愛国者たちの陥落

5. The EDSA Revolution

1986年2月フィリピン民衆の平和的な手段によって、マルコス大統領はフィリピンから去った。フィリピンではこの日をNational Peoples Day.と位置づけ祝日としている。

5年NESCは最後の部分でこの民衆の闘いを下記のように位置づける。

VII 公正な生活様式を得るための共同や闘争におけるフィリピン人によって示された愛国心の重要性・価値を指摘することができた。

B 平和的な方法で再び民主主義を得ることができたフィリピン人の闘いに誇りをもつことができた。

1. 人々の力を導いた出来事を発見することができた。

2. 1986年2月25日 EDSA 革命を叙述することができた。

2. 1 マスコミの重要性について言明できた。

2. 2 自由と権利を得るために共同と連帯によってなしとげられた英雄主義について話あうことができた。

3. 民主主義の再確立の重要性を指摘することができた。

3. 1 民主主義政府の方法をあげることができた。

3. 2 民主主義の擁護と保持の方法について話あうことができた。

小論で使用した教科書中、The EDSA Revolution が最初に登場するのは下記の2年教科書記述である。

2年生教科書記述④ (71ページ)

Epifanio delos Santos Avenue (EDSA)

The EDSA Revolution happened on February 22–25, 1986. It is also known as People Power Revolution. Millions of Filipinos used peaceful means to be free from the 20-year rule of Ferdinand E. Marcos.

They gathered and prayed. Today we celebrate the 25th of February as National Peoples Day. The Filipinos love of Freedom and Unity will always be remembered on the National Peoples Day

マルコスを倒した1986年の革命を記念するEpifanio delos Santos Avenue (EDSA)を紹介する記述である。ここでは、フィリピン民衆が集会・祈りという平和的な手段によってマルコス独裁を倒したことを価値づける。圧政から平和的に自立すること。それを何百万人の人々の連帯の元におこなわれた事実に、フィリピン人としての誇りと自覚を求めている。それ故に、教科書は「だから自由と連帯を愛するフィリピン人は the National Peoples Day をいつも心に刻みつづけるだろう。」という表現で終わっている。

同様の記述が3年ではフィリピン人の特質「Peace-Loving」として、4年では第4单元「Living Together As Filipinos in The New Republic」の冒頭で、5年では通史の中でその経過を詳細に記述している。

4年教科書では、新共和国（フィリピンではこの革命以後を第4共和制という）の未来を共に築いていこうという前提として EDSA Revolution は位置づけられている。それ程重要な歴史的事件である。

三、植民地的なものからの自立

本章ではレナト・コンスタンティーノが提起した二つ目の問題、すなわち「植民地的なもの」をどのように NESC や教科書が記述し、それを克服するための展望を何にみいだしているのかを見ていくこととする。

1、経済的従属の視点

下記の4年教科書の記述は、戦争によって破壊されたフィリピン経済を、アメリカによる戦後復興援助によって建て直すかどうかという歴史の分岐点を問題にしたものである。

4年教科書記述② (149ページ)

President Manuel Roxas, the President of the Philippines at that time, had to decide whether or not to accept the offer. The Philippines needed to rebuild the nation but there was no money to use for reconstruction. Finally, he made the painful decision to accept the offer together with the condition that went with the money. What do you think were the effects of this arrangement?

Today much of our business, banking, and manufacturing industries are controlled by Americans and American companies. Our mining companies have American stockholders. Very few Filipino - owned establishments can prosper in this condition.

上記の記述は、アメリカが援助するの代わりにフィリピンの資源使用権をアメリカが得るというベル通商法⁶⁹を結んだロハス大統領の決意はそれでよかったですを前半分で学習者に問っている。そして後半部分では、下線部分にみると「今日、私たちの仕事の多く、銀行、手工業はアメリカ人やアメリカの会社によって管理されてい

る。私たちの鉱山企業はアメリカ人の株主である。」とし、このような状況ではフィリピン経済の自立ができないと結論づけている。

2、軍事的従属の問題

1947年ロハス大統領はアメリカと軍事基地協定を締結した⁷⁰。そして1992年フィリピンから米軍基地はなくなる⁷¹わけだが、4年教科書発行（1987年）の時点ではまだ軍事基地はあった。4年教科書は米軍基地に関して次のように叙述する。

4年教科書記述③ (155ページ)

The American military bases remained in our country. Claro M Recto one of our courageous nationalists in the 1950's, saw the dangers posed by the presence of these bases. He exposed these in his speeches, and today more and more Filipinos have begun to see the wisdom in his ideas.

4年教科書は1950年代、レクトは（4年教科書はレクトを勇敢な nationalist の一人だという）米軍基地の駐留の危険性を指摘し、現在、彼の先見性は多くのフィリピン人によって評価され始めているとレクトを肯定的に評価している。テオドロ・アゴンシリリョ『フィリピン史物語』によれば、レクトが指摘した問題とは、アメリカとともに戦争になるという危険性であり、米軍基地内のアメリカ人が治外法権特権を持っていた点にある⁷²。

3、政治腐敗の視点

次は政治家の腐敗問題である。まずは下記の5年教科書第4单元第6章「現在の問題」(153~169ページ)の目次を見ていただきたい。

第6章 現在の問題

- ▼収賄と買収 ▼汚い政治
- ▼金持ちや権力者のためのある種の公正と貧乏人のためのもう一つの公正
- ▼政府に対する信頼の欠如 ▼価値基準の低下
- ▼富の分配の不均一 ▼貧困
- ▼和解へのアキノの試み ▼物価の高騰
- ▼新人民軍とモロ民族解放戦線

里井：フィリピンにおける小学校社会科Ⅱ

▼多国籍企業 ▼1986年の大統領選挙
▼ナムフレル ▼投票前の活動
▼投票の日 ▼投票の後 ▼勝者
▼EDSAの奇跡 ▼アキノの政府
▼憲法制定議会 ▼内閣
現在の問題の冒頭は「収賄と買収」「汚い政治」で始まり「政府不信」価値基準の低下」と続く。このような政治腐敗化の原因を4年教科書は次のように述べる。

4年教科書記述④ (155ページ)

On July 4, 1946, the Americans declared Philippine independence. Our elected leaders tried to govern the country following the American democratic system of government, but somehow, after long years of being colonized, our leaders found it difficult for the Philippines to be truly independent and to be on our own, managing our government affairs. Many Filipino leaders were brilliant and honest in office but in the end they were defeated by the systematic graft and corruption that, after the Japanese occupation, became a Filipino way of life.

ここでは政治腐敗の原因を二つ挙げている。一つは長い植民地下の後、真に独立するのが困難であると政治家が認識した事と、二つ目は日本占領下の後フィリピン人の生活方法となった収賄・買収構造に、当初正直で立派な政治家が陥ってしまった事である。

4、植民地以前の社会に見いだした展望

前述のような現在の問題状況に対して、フィリピン人の伝統（文化）にその展望、言い方を変えるならば Identity を見いだそうと4年教科書歴史記述は構成する。以下この点について考察する。

まずは下記の4年教科書歴史記述の目次を見ていただきたい。

4年教科書の歴史叙述部分の目次構成（ページ）

第3单元、私たちの国の伝統

第1課 過去を知ることと現在を理解すること
(108~111)

▼なぜ、私たちは過去を知るべきなのか。▼先史と歴史

第2課 先史時代の始まり (112~118)

▼氷河時代 ▼先史時代のフィリピン人 ▼結論

第3課 アジアの仲間の人々との古い時代の関係 (119~122)

（インド、アラビア、中国） ▼結論

第4課 バランガイ (123~128)

▼共同体 ▼家 ▼経済 ▼共同体の指導者達

▼社会階層 ▼法と裁判 ▼結論

第5課 スペイン以前の古きよき日々 (129~135)

▼宗教と信仰 ▼習慣と伝統 ▼求婚と結婚のしきたり ▼葬礼 ▼文学と音楽

▼芸術 ▼文字 ▼科学 ▼結論

第6課 スペインの統治 (135~144)

▼マゼラン ▼政治的影響 ▼経済的影響

▼社会的文化的影響 ▼結論

第7課 アメリカ人の足跡 (144~152)

▼政治的影響 ▼経済的影響 ▼経済的文化的開発 ▼結論

第8課 戦時下と日本 (153~155)

▼結論

第9課 今は私たちが築きあげる時です。 (155~160)

▼政治状況 ▼経済状況 ▼社会的文化的状況
▼結論

目次構成は下記の4年N E S Cを反映している。反映部分に教科書の該当する部分（課）をあてみると次のようになる。

III. フィリピン人であることを私達に確信させる文化を意味づけることができた。

A. 他の人々と結びつく以前にフィリピン人自身の土地と文化をもっていたことに誇りをもつことができた。——第2課

1. フィリピンが4300万年前からあったことを言うことができた。

2. 現在と同じ構造の島々が約200万年前からあったことを言えた。

3. FIRST FILIPINOS がかれら自身の文

- 化をもっていたことを証明できた。
- 第4・5課
3. 1 誰が FIRST FILIPINOS のかを知ることが出来た。
3. 2 FIRST FILIPINOS の源を述べることができた。
3. 3 文化的物質部分と非物质部分を叙述することができた。
3. 4 文化的物質部分と非物质部分に誇りをもつことができた。
4. FIRST FILIPINOS がかれら自身の家を建てようと魅惑した地理的状況を説明することができた。——第1課の1部
4. 1 FIRST FILIPINOS の家の種類を叙述できた。
4. 2 家の特徴を見いだすことができた。
- B. わが国の文化共同体の中に、アジア文化の伝達がどのように貢献したのか説明することができた。——第3課
1. わが国が接触してきた最初の外国人を知ることができた。
2. 外国人と意志伝達を促進した環境の特性を指摘することができた。
3. フィリピン人の古い文化は最初の外国人の貢献によるものであることを叙述できた。
4. アジアや太平洋の国々の文化にフィリピン人の貢献があることを知ることができた。
- 例. ポリネシアやメラネシア
5. フィリピンに最初に接触してきたアジアの国々の位置を地図で指し示すことができた。
5. 1 フィリピンとその場所の距離表記を縮尺を使って表すことができた。
- C. フィリピンに接触してきた外国の文化がどのようにして、フィリピン文化に影響したか説明することができた。
1. スペインとの接触の影響によってフィリピン文化のおこりうる変化を話あうことができた。——第6課
1. 1 フィリピンがスペインの一部になる途中でおこった事件を叙述することができた。
1. 1. 1 スペイン人と最初に接触したわが国の場所を地図で指し示すことができた。
1. 1. 2 スペイン人と最初に接觸したわが国の場所の自然地理的状況を知ることができた。
1. 2 スペイン時代のフィリピン文化に対するよい影響と悪い影響を言うことができた。
1. 3 スペイン文化にたいするフィリピン人の反応を何であったかを語あうことができた。
1. 3. 1 森の中にいたいくつかのエスニックグループの伝統文化を、スペイン人は変えることができなかつたのかどうか指摘することができた。
1. 3. 2 なぜ、フィリピンのキリスト教が、平和に生きるために権利と自由を最後まで闘い広げなかつたのか、言うことができた。
2. アメリカと日本時代のフィリピン文化の変化を説明することができた。
- 第7課・第8課——
2. 1 フィリピンがアメリカの植民地になる途中でおこった事件を叙述することができた。
2. 2 アメリカ統治によっておこったフィリピン文化の変化の幾つかを知ることができた。
2. 3 フィリピン文化にアメリカ合衆国がおよぼした影響の善悪を選択することができた。
2. 4 どのように日本時代の間にフィリピン文化が前進したのか指摘することができた。
- D. 学んできた先行文化の考え方られる影響について発見することができた。
1. わが国の歴史上の重要事件の幾つかを知るための年表を使用することができた。
2. 学んできた出来事を指摘することができた。
3. 先行文化の影響を認識することができた。

NESC 4年地理・歴史・市民科の歴史的部分の特徴は次の点にある。

①フィリピン人文化の意義を学習者に確信させ

ることをねらいとしていること。教科書では、これを「私たちの国の伝統」と単元名としている。

②フィリピン人文化の形成を次の三つに分けて構成している。

(1) FIRST FILIPINOS がフィリピンの「基層文化」を独自に作りあげ、その事に誇りをもたせたいということ。

(2) アジア諸国との対等の交流の中でフィリピン文化の「第2層」が形成されたこと。

(3) フィリピンを植民地した外国の影響によってフィリピン文化の「第3層」が形成されたこと。

③ D-3、年表作成にみるよう歴史的な流れで押さえようとしている。

②の構成は、3年教科書歴史叙述部分（後述）とほぼ同様の構成となっているといえよう。相違点は3年教科書内容が人種的特徴・態度・生活文化であったのに対して、文化だけでなく政治的な事件や出来事をも含みこんでいる点にある。

4年教科書の構成は基本的には4年NESCをうけているといえようが、その重点は②-(1) FIRST FILIPINOS が形成した「フィリピン基層文化」に置かれていると形式面、内容面両方から言える。形式面からは、歴史学習の意義を論じた第1課をのぞいた全8課中3課、58ページ中20ページがあてられている点である。内容面からは特に第5課で「スペイン以前の古きよき日々」というタイトルが明瞭に示している。

なぜ、NESCや教科書は基層文化を重視するのであろうか。それは前節まで指し示されたフィリピンが抱えている現在的な問題とかかわってくるからである。次の4年教科書記述をみていただきたい。

4年教科書記述⑤ (160ページ)

Our early forefathers had their own way of life. They lived in free, independent barangays. Their culture was characterized by freedom, cooperation, and unity. They devised ways to cope with their environment. The coming of the Spaniards, followed by

the Americans, and later on, the Japanese changed many of our people's ways. Our culture became westernized.

Christianity became our way of life. We learned other languages. Our knowledge about the world broadened. Our products reached the European markets.

In the process we had to sacrifice some of our freedoms.

Today we cannot completely say that we are free. However, we are trying to find solutions to our national problems. Just like the early Filipinos, we are experimenting with a way of life that we hope will eventually answer our needs. The attitudes, beliefs, customs, and traditions we practice today are attempts to make a better life for our people and for the generations to come.

この部分は4年歴史学習のまとめ「単元要約」の一部である。冒頭で基層文化を築いた人々の有り様すなわち、自由で自立した共同体、自由と共同と連帯に特徴づけられる文化、環境に対処する方法の工夫を述べる。

つづいて植民地となり、文化は西洋化しキリスト教が生活スタイルとなった。外国语を学び、海外の知識を得、フィリピンの産物はヨーロッパに達した。

しかし、その過程でフィリピン人の自由の幾許かを失わなければならなかったという。だから、現在のフィリピン人は完全に自由だと言う事はできない。だが、フィリピン人は基層文化を築いたフィリピン人のように national 問題の解決に乗り出し未来を築こうと提起している。したがって、4年教科書本文では経済的従属に対しては、基層文化を作りだした人々が自立した経済を営んでいる像(124ページ)、政治的腐敗に対しては、バランガイ^⑨の指導者たちが正しく・公正で、力強く、尊敬されていた像を描きだしている(125ページ)^⑩。

四、ETHNIC認識と NATIONALIZATION

ここではドロニラが提起した ETHNIC 統合の視点、すなわち異なる ETHNIC 集団をフィリピン国民として確信させるための教育内容を、NESC や教科書からみてみることにする。

1、フィリピン人の祖先「Early Filipinos」 下記の1年教科書記述をみていただきたい。

第1单元 MY COUNTRY AND I

第2課 HOW DO FILIPINOS LOOK

▼How Do Early Filipinos Look ?

The early Filipinos were the Aetas or Negritos, the Indonesians and the Malays. They became our ancestors.

▼The Aetas

The Aetas or Negritos were among the early groups of people who came to the Philippines. They had dark skin. They had kinky or curly hair. They had flat noses and

thick lips. They were short. Some Filipinos look like our Aeta ancestors.

▼The Indonesians

The Indonesians were another early groups of people who came to the Philippines. They were tall and had slender bodies. They had deep-set eyes, high noses and thin lips. They had dark skin. Some Filipinos look like our Indonesian ancestors.

▼The Malays

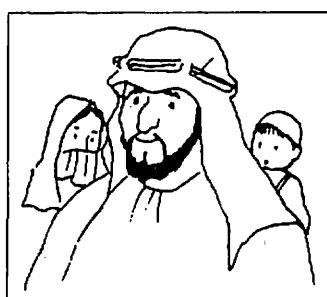
After the Indonesians came the Malays. They had small bodies and they were not so tall. They had brown skin. They had flat noses and black hair and eyes. Most Filipinos look like our Malay ancestors.

▼Other Early Filipinos

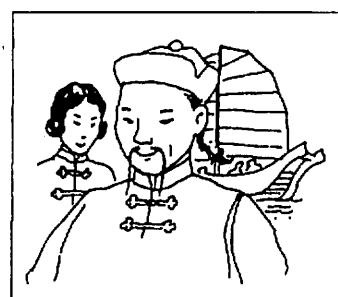
Here are the other groups of people who came to our country. We learn many good things from them. Study the picture below and describe how they look.



Indian



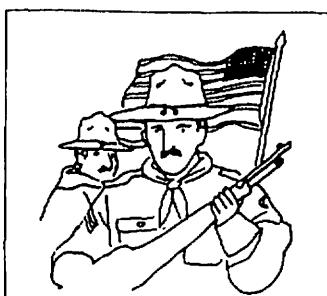
Arab



Chinese



Spaniard



American



Japanese

里井：フィリピンにおける小学校社会科Ⅱ

1年教科書には左の歴史的叙述が納められている。

冒頭に「Early Filipinos」はどんなふうに見えるかと問い合わせで始まっている。「Early Filipinos」という概念は、25000年前に陸橋を渡ってフィリピン群島に渡来したアエタやネグリト^⑥から、近代になってフィリピンを植民地にしたスペイン人、アメリカ人、日本人まで、この教科書記述では含まれる。現在のフィリピン人の祖先をすべて「Early Filipinos」と表現したといえよう。従ってそれぞれのフィリピン人の形状は、その祖先「Early Filipinos」によって違うのだが、現在は同じフィリピン人であることが記述の底流に流れている。

ただし、教科書の「Early Filipinos」記述は大きく二つに分けられている。

一つは肉体的特徴が明記されているアエタ・ネグリト、インドネシア人、マレー人である。フィリピンにやって来た順に記述されている。あるフィリピン人はアエタ・ネグリトやインドネシア人のように見え、大多数のフィリピン人はマレー人のように見えるというように ETHNIC の大まかな構成を表している。

もう一つはフィリピン人に文化 (many good things) をもたらした「Early Filipinos」インド人、アラブ人、中国人、スペイン人、アメリカ人、日本人である。そして彼らの肉体的特徴を絵から読み取る構成になっている。彼らの子孫は絶対少数であるしかし、彼らがおよぼした文化的影響は無視できない要素であるという認識である。

この教科書記述は1年 NESC では下記部分に該当する。

I、National Identity / Pride

A、フィリピン人であることの価値づけをすることができた。
(中略)

2、フィリピン人の身体的特徴を叙述することができた。

2. 1 フィリピン人の身体的特徴を確認することができた。

2. 1. 1 フィリピン人、各々の肉体的特徴を確認することができた。

2. 2 フィリピン人の身体的特徴に違いが

あることを確認することができた。

2. 3 下記の点を通してフィリピン人の肉体的特徴を示すことができた。

——自己の肉体的特徴の叙述や描写

——フィリピン人である私自身の確認

3、フィリピン人の肉体的特徴を推論できた。

NESC はフィリピン人である多くの ETHNIC 集団の身体的特徴を認識することを求め、同時にその中に自分自身を置き、観察することによって、自分自身がフィリピン人であるという Identityを確認するという方法をとっている。そしてそのように確認された ETHNIC 集団全てがフィリピン人である。言い方を変えるならばフィリピン人にはいろいろな肉体的特徴をもった人々がいるということを教えたのである。そこで、1年教科書では、フィリピンを植民地にしたスペイン人、アメリカ人、日本人までを含めた間口の広い Early Filipinos という概念を設定し、その肉体的特徴をもつ子孫全てがフィリピン人であるという認識を1年生に求めたといえよう。

2、文化の混合

3年生教科書の歴史記述部分では、生活文化の伝授に視点を据えて各 ETHNIC や渡来外国人、植民地にした外国人がフィリピン人に寄与した具体的な物を歴史的に示すことに重点がおかれていく。多様な生活文化が重なって現在のフィリピン人が形成されたことに重点が置かれている。

その目次構成は下記のようになっている。

第2単元 フィリピン人、人種の混合

第6課 私たちの祖先

タボン原人、ネグリート、インドネシア人、マレー人、マレー人三つの流れ、フィリピン人種

□フィリピン人の祖先の名は □古い時代に私たちの国に来た渡来人の人種的特徴をのべる。

■ネグリートやインドネシア人やマレー人は私たちの文化に貢献した。□私たちは祖先を誇り、ほめ讃える。

第7課 古い時代、フィリピン諸島に来た外国人

インド人、中国人、アラビア人

□古い時代にフィリピンに貿易にきた外国人の確認 □私たちの文化にたいする影響の比較と対比。■外団人が私たちに及ぼした信条や習慣や伝統への影響を具体的にのべよ。■国民として私たちの進歩に貢献した外国人を賞賛する。

第8課 私たちの祖先にたいする更なる外国人の影響

マジェランの冒険、スペイン人、アメリカ人、日本人、
□スペイン人やアメリカ人や日本人がいかにしてきたか述べる。□フィリピン諸島に住みついだ外国人の人種的特徴を述べる。□特に移民者から得た習慣や態度を叙述する。□生活の方法におけるスペインやアメリカや日本の重要な貢献を述べる。■スペインやアメリカや日本の影響が私たちの国の進歩に貢献していることを証明する。

3年生教科書では、2年生教科書の「Early Filipinos」概念は分化され、タボン人、ネグリート、インドネシア人、マレー人が「Our Fore-father」(前述4年NESCではFIRST FILIPINOSとして登場した)と呼ばれ、中国人、アラビア人、スペイン人、アメリカ人、日本人は、FOREIGNERS(外国人)として区別されるようになる。

そして冒頭第6課では「私たちの祖先」ということでタボン原人、ネグリート、インドネシア人、マレー人、が登場する。彼らの肉体的特徴については2年生と同様に詳述されている。違いは狩猟・土器制作などの具体的な生活方法を列挙している点である。それが現在いるフィリピン人とどう関係するのかという記述はない。祖先が人種的特徴と生活文化の変化に貢献し、フィリピン人の生活や文化を発展し豊かにしたという一般的な記述で終わっている。しかし目次ではそのことを誇り、称賛することを学習者に求めている。

第7課は、貿易という形でフィリピンに渡来した外国人、すなわちインド人、中国人、アラビア人である。彼らの文化的貢献に対しては、「称賛」という形で価値づけられている。

第8課はフィリピンを植民地にしたスペイン人、アメリカ人、日本人の文化的貢献記述である。

文化的発展に貢献したことは認めながらも、称賛という記述はない。

NESC市民文化科3年の教科書該当部分は下記のようになっている。

I, National Identity / Pride

フィリピン人の伝説とフィリピン自身の国に誇りをもつことができた。

E. フィリピンの肉体的特性の相違の理由を説明することができた。

1. フィリピン人の先祖を知ることができた。
 1. 1 フィリピン人の先祖の肉体的特徴を描くことができた。
2. フィリピンにやってきた外国人を知ることができた。
3. フィリピン人の肉体的特徴の相違の理由と私たちの歴史の出来事の幾つかを指摘することができた。

4. 次のように肉体的特性を浮かぶものは何でもフィリピン人であることに誇りをもつことができた。

—— フィリピン人の肉体的特性を描くことができた。

—— 特性の種類を保持する理由づけの説明のいくつかをあげることができた。

F. 生活方法を発展させるフィリピン人のよい態度と内面の思考に誇りをもつことができた。

1. フィリピン人の先祖のよい態度や内面の思考を描くことができた。
2. 外国人から得たよい態度と内面の思考を指摘することができた。

3年NESCは多様な先祖や多様な外国人から受け継いだフィリピン人の態度や思考に誇りをもたせようとしていることがわかる。

また、教科書は次の点においてはNESCをうけているといえよう。

①フィリピン人の肉体的特徴に関しては3年NESCが2年NESCを発展させ、各ETHNICの相違をその歴史性の違いから理由づけようとしている点。

②先祖とフィリピンにやってきた外国人を区別

している点。

③生活方法を発展させる態度や思考（文化）を先祖や外国人から受け継いだこと。

三年教科書における具体的歴史記述として、次の短くまとまつた日本に関する記述を紹介する。

3年教科書記述① (95ページ)

The Japanese came to occupy the Philippines, too, but they stayed here for only four years. They were like the Chinese. They, too, have yellowish skin. They have small chinky eyes and straight, black hair. They have slender bodies. They bow to one another to show courtesy and respect. They are also brave people.

▼日本の影響

The Japanese taught us how to raise ducks and to breed fish. These industries helped Filipinos to sell duck's eggs and dried fish to foreign traders. The Japanese also taught the Filipinos how to tan their skin. They also taught us how to make weapons and tools.

スペイン、アメリカと続いて4年間(1942~45)、フィリピンを占領した日本人の①肉体的特徴、②態度、③文化的貢献は次のように描かれている。

①中国人のように、黄色い肌で、体は小さく、細い目で、真っ直ぐで黒い髪で、細い体をもっている。

②礼儀と敬意を表すためにお辞儀をする。日本人もまた勇敢な人々である。

③日本人が導入した技術としてアヒルの飼い方と卵の輸出、魚の養殖と干魚の輸出が列挙され、日光浴の仕方や武器の使い方等を伝授されたという。

3年歴史記述は上記にみるように、日本人の性格、文化的貢献を肯定的に叙述している。それは日本だけでなく、フィリピンを植民地にしたスペインやアメリカも同様である。ここに、長い植民地経験の全面否定ではなく、肯定できる部分を押し出すことによって、フィリピン人としての文化的共通性（特にスペインのキリスト教、アメリカの民

主主義）、ETHNIC の統合を認識させようとしているように思える。

なお、3年教科書は歴史叙述の後の第9課で祖先から受け継いだフィリピン人共通の特性として、唯一の神を信じる、HOSPITALITY、平和を愛する等をあげ、統合を合理化し、第10課でフィリピン語使用、民族衣装、民族音楽獎勵によって、統合を促進しようとしている¹⁰。

五、まとめ

フィリピン小学校社会科における Nationalization (国民化・民族自立) の問題を、三つの視点から NESC や英語版教科書の歴史記述を素材に考察を加えてきた。

以上の考察の範囲からは、下記の事がいえる。

① フィリピン人としての Identity 形成に関して

(1) 従来のスペインや日本に対する闘いだけでなく、アメリカに対する闘いを、歴史・地理・市民科（高学年）NESC や教科書は叙述するようになっていること。また市民・文化科（低学年）教科書（3年）にも、アメリカとの闘いを意識したフィリピン語教科書がある。

(2) 低学年教科書（2年）に、ほとんどフィリピン人として Identity をもたないイスラム系の祖先を、外国人によってけっして征服されなかったフィリピン人として称賛し、イスラム系をフィリピン人として確認しようとしている。

(3) The EDSA Revolution は、何百万人もの民衆が連帯して平和的に革命をなしつけた。それを National Pride にし、そこに National Identity を見いだそうと2年生以降の教科書では繰り返し語られる。

② 植民地的なものからの自立に関して

(1) ある4年生教科書には、フィリピンがアメリカに経済的かつ軍事的に従属していることが記述されている。

(2) ある4年生教科書には、政治的腐敗は、フィリピンが自立していない事と、日本支配下で形成された収賄と買収の構造によるもの

であると記述されている。

- (3) フィリピンが自立するためには、フィリピンが植民地になる以前の自立した社会に学ばなければならないという事で、4年 NESC や教科書では植民地以前の社会が詳述されている。

③ ETHNIC 認識と統合に関して

- (1) 1年生では、自己も含めて各 ETHNIC 集団の肉体特徴を認識することでフィリピン人であるという Identity を確認している。その意味は Early Filipinos (植民地宗主国人を含む) という概念を設定し、その肉体的特徴をもつ子孫全てがフィリピン人であるという認識を1年生に求めている点にある。
- (2) 3年生では、統合概念「フィリピン人」の態度・生活様式（ここでは肯定的側面に限定されている）は、各 ETHNIC 集団の先祖、貿易で来た外国人、フィリピンを植民地にした外国人から、混合的に形成されたものだとしている。

また、小学校歴史記述に限って言えば、Nationalization に関する学年構成は次のようになっているといえよう。

【低学年社会科、市民文化科】

- 1年 —— 人種的多様だが、すべて「フィリピン人」である。
- 2年 —— 独立と平和のために闘った「フィリピン人」に Identity を求める。
- 3年 —— フィリピン人のよい態度や生活様式は混合的に形成されたものである。

【高学年社会科、歴史・地理・市民科】

- 4年 —— 植民地的なものからの解放のために植民地以前の社会にモデルを求める。

- 5年 —— 通史（アメリカとの闘い・政治的腐敗などの問題提起を含む）

以上の事から、低学年社会科歴史的記述の特徴は、肉体的特徴の相違や態度、生活様式の混合的形成や、Identity を形成する事件をも、すべて肯定的に含みこんで Nationalization (国民化) しようとするところにある。

また、高学年社会科歴史的記述の特徴はレナト

・コンスタンティーノの1960年代の主張、すなわちアメリカとの闘いを含んだ Identity 形成、アメリカからの経済的自立などのNationalization (自立) が NESC や教科書にある程度反映しているところにあると言えよう。

以上、フィリピン小学校、NESC および英語版教科書の社会科歴史記述をみてきた。公立小学校の大半で使用されているTEXT BOOK PROJECT が編集したフィリピン語版教科書では歴史的記述がどのように記述されているのかという大きな課題は残るが、Nationalization (国民化・自立) が、今後のフィリピン社会科理解のためのキーワードの一つとなるとは言えよう。

【謝辞】 NESC (原文はフィリピン語) の英訳は、フィリピン、イロイロ市にある西ビサヤ大学の Famela Mallorca さんにしていただいた。記して感謝したい。

注

- (1) 高橋彰訳『全訳世界の教科書シリーズ14 フィリピン その国土と人々』(帝國書院、1978年) 訳者前書きⅢページ
- (2) 内海愛子・田辺寿夫編著『アジアからみた「大東亜共栄圏」』梨の木社、1983年
- (3) 梨の木社、1990年。フィリピンは217~258ページ。
- (4) 滋賀大学教育学部社会科教育研究室紀要『社会科教育の創造 創刊号』1994年
- (5) 滋賀大学教育学部社会科教育研究室紀要『社会科教育の創造 第2号』1995年
なお木全氏はフィリピン学校制度にかんする最新の報告を「現代フィリピンの学校教育イロイロ地方の初等・中等教育」(『滋賀大学教育学部紀要第44号』1995年3月)で行っている。
- (6) 『琉球大学教育学部紀要第46集』1995年3月
- (7) 研究社『新英和大辞典』第4版、1960年、1190ページには、Nationalization I 国民(国風)化、国家的制定; 民族自立、II 国有化、国営 III《まれ》帰化させる(Naturalization)とある。
- (8) 「フィリピン人のうけたえせ教育」(『フィリピン・ナショナリズム論(上)』井村文化事業

- 社刊、勁草書房発売、1977年) 108ページ
- (9) レナト・コンスタンティーノ「フィリピン人のうけたえせ教育」(『フィリピン・ナショナリズム論(上)』井村文化事業社、1977年、)を要約した。
- (10) 前掲レナト・コンスタンティーノ「フィリピン人のうけたえせ教育」108~109ページ
- (11) 文部省大臣官房調査統計課『フィリピンの教育—アジア教育協力調査団報告書資料編(II)』1972年、24ページ
- (12) 高橋彰訳『前掲』訳者前書きⅢページ
- (13) 東南アジア調査会『東南アジア要覧 1971年版』9~16
- (14) 東南アジア調査会『東南アジア要覧 1977年版』8~19
- (15) 1990年、東京大学教育学部比較教育学研究室『火曜研究会報告第15号』
- (16) 市川誠「フィリピン教科書プロジェクトによるナショナル・アイデンティティ形成の評価—教科書の内容分析と学校調査をもとにして—」31ページ。
- (17) 『フィリピンの事典』11~12ページ、宮本勝「民族」(同朋社、1992)
- (18) 市川誠「前掲書」31ページ
- (19) 市川誠「前掲書」32ページ
- (20) 各学年のカリキュラムの題名は Minimum na Kasanayan sa Pagkatuto で始まる。すなわち「学ぶべき最低限の学力」というような意味である。各文の冒頭はほとんど例外なく「Na」ではじまる。フィリピン語の接頭辞「Na」に動詞がついては「・することができた」(和泉模久『フィリピン語入門』泰流社、1982年、97ページ。)となる。したがって、このカリキュラムは到達目標という形で表記されているといえよう。
- (21) 1986年発行のManuel G. Lacuesta他「HISTORICAL, PHILOSOPHICAL, AND LEGAL FOUNDATIONS OF EDUCATION」によると公立私立を問わず小学校および中等学校の教科書は許可選択制がしかれている。
- (22) たとえば、歴史教育者協議会編『シリーズ、知っておきたいフィリピンと太平洋の国々』(青木書店、1995年) 35~38ページ。
- (23) 「無理解による崇敬—リサール論—」(『フィリピン・ナショナリズム論(上)』井村文化事業社、1977年、)
- (24) 「奴隸的卑屈さの根源—アギナルド論—」(『フィリピン・ナショナリズム論(上)』井村文化事業社、1977年、)
- (25) 里井洋一・Santiago C. Higgins Jr「フィリピンにおける小学校社会科(I)－3学年の授業にみる『ナショナリズム』教育—」(『琉球大学教育学部紀要第46集』1995年3月) 179~180ページ
- (26) 『フィリピンの事典』(同朋舎、1992)、ベル通商法(318ページ)によれば「1946年4月、アメリカ議会で制定され、独立前夜の7月3日、フィリピン(コモンウェルス)議会が比米両国大統領間の行政協定として承認した。(中略) 全体としてフィリピンへの特権が継続された代わりに、アメリカが対比投資上で内国民待遇を得た点が重要である。(中略) アメリカ市場依存と輸出農産物特化という植民地的構造は温存された。またアメリカの工業製品に対する内国民待遇により民族資本による工業化は妨げられた。(後略)(浅野幸穂)」とある。
- (27) 前述『フィリピンの辞典』軍事協定(MBA), 123ページ
- (28) 1991年9月の米比基地協定の期限切れを前にフィリピンアメリカ両政府は同年8月ピナツボ山噴火の被害を受けたクラーク基地を92年に返還し、スピック基地を10年存続条約に調印した。しかし、フィリピン上院は9月、同条約批准拒否の決議案を可決。クラーク空軍基地は同年11月26日、スピック海軍基地も92年11月24日に返還された。(『時事年鑑(1994年版)』491ページ、時事通信社)
- (29) テオドロ・アゴンシルリョ『フィリピン史物語—政治・社会・文化小史—』(井村事業文化社刊、勁草書房発売、1977年)、274~278ページ。
- (30) ここでは、フィリピン諸島の伝統的な村落社会。元来は舟を意味するが、一隻の舟で渡来て住み着いた集団を指す語として用いられてきた。スペイン統治下で、バランガイはバリオと

呼ばれるようになるが、現在、行政単位用語として、復活している。

- (3) 第4年教科書(127ページ)(第3単元 わたしたちの国の伝統、第4課、バランガイ)には下記のような 今日のフィリピン社会とバランガイ社会を比較する思考問題がある。

1. The people during the early days wanted their leaders to be fair and just, strong and respected. Should we expect the same characteristics from our leaders today? Why?
2. People in the barangays produced the things they needed. Do you think we can do the same thing today? What are the advantages and disadvantages of being able to produce all the things we need?

1は政治的腐敗に対する問題提起である。バラ

ンガイ社会の指導者は正しく、公正で、力強く、尊敬されていた。現在の指導者に同様の性格を期待できるかどうかを問っている。

2は経済的従属に対する問題提起である。バランガイの人々は彼らが必要とするものを生産した。あなたは、今日、同じことができると思うか。私たちが全ての物を生産することができるようになるための有利な点と不利な点は何ですか。と問っている。

- (3) トライバルフォーラム「われわれの原住民にのこされているもの」(『フィリピン伝統文化への招待』井村文化事業社、1990年)

- (3) 里井洋一・Santiago C. Higgins Jr.: フィリピンにおける小学校社会科(1) 3学年の授業にみる『ナショナリズム』教育。(『琉球大学教育学部紀要第46集A』、1995年3月) 178~179ページ